

令和2年度第3回公立大学法人福知山公立大学評価委員会

1 日 時 令和2年8月6日(木)13:00～14:30

2 場 所 市民交流プラザふくちやま 4階会議室4-1
評価委員会委員の一部は Zoom での参加

3 出席者

委員	(リモート参加) 青山委員長、大久保委員長職務代理 (会場参加) 菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	岸本課長、井上係長、倉主事
福知山公立 大学	井口学長、山本事務局長、内田GM、外賀AM、荻野AM、矢野、神代

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 公立大学法人福知山公立大学 令和元年度及び中期目標評価 (4年終了時)に係る業務実績 評価について	法人から 【資料3】 により意見書の説明を行い、意見交換を行った。 ⇒業務実績評価書原案の修正なしで、業務実績評価書として確定。
2	【報告事項】 令和元年度公立大学法人福 知山公立大学財務諸表等につ いて	【資料4】 、 【資料5】 により、財務諸表及び剰余金に係る事務局確認事項を報告した。 ⇒財務諸表及び剰余金を翌年度に目的積立金として繰り越すことを承認。
3	意見交換・質疑等	(主な意見) 【議題】 <ul style="list-style-type: none"> ■ 評価を「4」としている項目において、実績報告の記載の中でどの部分が「4」に相当するか分からない部分があったため、それが読み取りやすい記載内容にしていきたい。 ■ 地方独立行政法人法上、設置者が評価委員会を設置し、法人の評価を実施する。評価委員会が評価をするために法人は、自己評価をしなければならないとなっている。評価の基準を改善するのであれば、双方で話し合って整えていくべきである。

		<ul style="list-style-type: none"> ■ 評価において、「オール4」が出るようなものは違和感があり、評価の中で「4」や「3」や「2」があるなど、評価は法人の強みや弱みを率直に表すようなものでなければならない。 ■ 中期目標・中期計画に基づく年度計画には、はっきり何を見て欲しいのか、何が指標なのか、どうなれば「4」や「5」の評価となるのか、法人と評価委員会でお互いが理解している状態にしていくことが次期中期目標の策定に当たって重要となる。 ■ 広報の効果測定では、一番効果が高いものは何かを現状把握する必要がある。例えば、新入生に対して、「何で関心を持ったか」「何で大学を見つけたか」など入学に直結した動機を把握するためのアンケートを実施して、どの広報活動が有効なのか、地元の生徒と遠方の生徒に分けて、効果の高いものを現状把握してはどうか。 <p>【報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大学で自己資金を獲得して、ハコモノを建てるというのは難しい。2学部体制となり、学生も増えているので学生が快適な環境で学んでいただくために、設置団体においても、法人と連携して国からの補助金を獲得するなど施設改修ための予算措置をいただきたい。
--	--	--

5 次第

- (1) 開会挨拶 青山委員長
- (2) 公立大学法人福知山公立大学令和元年度及び中期目標評価（4年終了時）に係る業務実績評価について

(青山委員長)

業務実績評価書原案への意見書について法人から説明をお願いします。

⇒【資料3】により法人から意見書について説明。

(青山委員長)

法人からの意見書について、委員の皆様から御意見ををお願いします。

(委員)

- 法人は、大学運営をしている中で大学の実態を知っているため、評価委員会の評価に対して思うところがあるかもしれない。ただ、評価委員会や市民は、法人から提出される業務実績報告書でしか大学がどのような実態であるかを理解できないのが実情である。
- 例えば、年度計画の重点項目を達成したから「4」と評価したということを実績として書き込めば、大学の評価理由が理解しやすくなる。
- また、評価を「4」としている項目において、実績報告の記載の中でどの部分が「4」に相当するか分からない部分があったため、それが読み取りやすい記載内容にしていきたい。
- 市民の目線を入れていただき、大学側が重点的に取り組んだ項目が分かりやすい業務実績報告書の記載をいただきたい。

(委員)

- 評価委員会は、大学の現場を詳細に見ているわけではないため、現場の思いと評価委員会の評価に食い違いが生じていると意見書から読み取った。
- 目標を数値で表すことは難しい項目もあるが、目標を立てる時に具体的な数値目標を設定しなければ、評価がしづらい。
- 評価委員会からの評価は、評価として受け取っていただき、今後の法人運営の改善に繋げていただきたい。

(委員)

- ゼロからスタートして、4年間で新学部設置などよくここまでやってこられたと評価をしている。
- 評価委員会は、地方独立行政法人法に基づいて、設置者である福知山市から法人の評価を委託され、評価については法人から業務実績報告書を提出いただき、評価を実施することになっている。
- 評価には透明性が必要であり、評価実施要領においても「透明性の確保」が記載されて

おり、業務実績報告書や評価書を見て、市民が理解できる合理性が必要となってくる。

- 法人の自己評価において、これまでの実績に対する努力や成果が表れていると感じているが、市民目線からすると法人が提出された業務実績報告書の記載内容でしか大学運営の実態が分からないため、評価委員会としては、報告書の内容で評価を実施することになる。
- 中間評価である 4 年間の総合評価をすることにおいて、社会一般的にこれまでの評価の平均点が 1 つの基準・基本となり、そこから評価を調整していくことになる。
- これまでの評価の平均点が「3. 2」であるが、4 年間の評価を「4」とするには、それに相当する合理性がなければ、評価を上げることはできない。
- 例えば、過去の評価が「3、3、5、3」とあって、「5」と評価した年度の成果が 7 や 8 に相当するような場合、4 年間の中間評価を 4 とすることについては合理性がある。
- そのような説明を報告書に記載いただければ「4」や「5」に相当する評価ができるが、報告書上で読み取ることができない場合は、平均点をベースに評価せざるを得ない。
- 「年度評価実施要領」や「中間評価実施要領」の評点の基準において、「計画を概ね実施している」が「3」の評価と記載され、「2」の評価は「計画を十分に実施できていない」と記載され、「4」の評価では「上回っている」と記載されるなど、この部分だけを見ると計画を 100% 実施できたという評価が「3」か「4」のどちらに当たるか不明瞭である課題はある。
- 地方独立行政法人法上、設置者が評価委員会を設置し、法人の評価を実施する。評価委員会が評価をするために法人は、自己評価をしなければならないとなっている。評価の基準を改善するのであれば、双方で話し合っ調整していくべきである。
- 今回、自己評価が評価委員会の評価と相違している箇所が多かったため、評価基準の見直しや統一、また報告書における記述の工夫をしていただきたい。

(委員)

- 情報学部を 1 年前倒して設置したことは評価委員会として、大いに評価をしているが、全体の評価において、法人の自己評価では「4」だったものを「3」に下げたことによって、全体評定「3. 3」となった。
- 全体評定を超えて、大項目別評価を変えることもできたが、評価委員会の議論の中で評価はそのままにした。
- 厳しい環境下で平成 28 年度に私立大学から福知山公立大学を新しく立ち上げられたが、現在、国レベルで言うと福知山公立大学などは私立大学が公立化した大学の 1 つと位置付けられており、ポジティブな捉え方ではなく私立大学の経営破綻を救うために公立化したと揶揄されるような見られ方をしているのも事実。
- 文部科学省の「私立大学の公立化に際しての経済上の影響分析及び公立化効果の「見える化」に関するデータ」において、高知工科大学から公立千歳科学技術大学まで私立大学から公立化した 10 大学のデータが公表されている。

- その中で、特徴的なのは地域内入学率があり、昨年度だと高知工科大学は 39%、福知山公立大学は 1.5%となっている。
- そうした厳しい目で見られている中、地域に愛された大学づくりをするために募集などかなり努力をされているが、三たん地域の入学者の増加を期待して、このような評価結果となった。
- 評価において、「オール4」が出るようなものは違和感があり、評価の中で「4」や「3」や「2」があるなど、評価は法人の強みや弱みを率直に表すようなものでなければならない。
- 法人の自己評価と評価委員会の評価と相違があるが、外部からの視点が正しい評価であることを法人として享受する必要がある。
- 例えば「2」の評価が付いたら、それは法人としての弱点であるため、その項目をどのように改善していくか、これからの行動の1つの目印となっていく。
- いたずらに全ての項目を「4」にするというよりも課題は課題として、しっかり評価委員会として、法人側に提示しなければならないため、今期中期計画期間の評価については、このような目線で評価を実施した。
- 先ほど法人から説明のあった通り、第1期では開学決定直後に中期目標が設置者から提示され、極めて短期間で中期計画を策定せざるを得ない状況にあった。第2期中期目標の策定に当たり、中期目標が法人として受け入れがたいものである場合は、中期計画の策定も厳しくなるため、適切な目標の提示が求められる。
- 制度上、設置団体から指示されることが中期目標であるが、法人側と設置団体で共有しながら歩むべき6年間の道しるべが中期目標である。
- 評価委員会で一番手が及ばないのが年度計画であり、法人で策定されたものに対して、業務実績報告で見ることでしか評価委員会は関与ができないため、どうしてこのような年度計画を立てたのか疑問に思うことがある。
- 法人が作成した実績報告書の中に「再掲」が出てくるが、一字一句変わらないような実績報告を記載するなら同じ計画であるべきで、項目が多過ぎることによって生じている課題である。
- 100項目を超える小項目を目標として60項目程度に減らすことの検討も必要である。
- 中期目標・中期計画に基づく年度計画には、はっきり何を見て欲しいのか、何が指標なのか、どうなれば「4」や「5」の評価となるのか、法人と評価委員会でお互いが理解している状態にしていくことが次期中期目標の策定に当たって重要となる。

(委員)

- 期間評価については議論となったが、法人側の意見書の意図として大項目別評価においてももう少し評価を上げて欲しかったというのが本音だったと思う。
- 情報学部ができたことについては、素晴らしい成果であると評価をしているが、他の地域貢献も含めた全体の項目を評価した結果、評定平均が「3.3」となった。
- 評価をただ平均化することに対して、異論もあると思うが、過去3年間の評価との整合を図るために評価委員会で議論の上、大項目別評価も例年と同じ形で評価をした。

- 小項目別評価について、年度計画の記載が2~3行程度しか記載されていないため、実績では数字を含めて詳しく記載されていても、その実績が業務を実施しただけとしか読み取れない箇所があった。
- 実績を見ると、事業を一生懸命されていることは分かるが、年度計画にも数字など具体的な記載があると評価もしやすいため、目標値を設定いただきたい。
- 中期目標は設置団体が決め、法人は中期目標達成のために中期計画を策定し、実施していく形となっているが、現実的には設置団体と法人で連携して考えていく必要があるため、次期中期目標・中期計画の策定に当たっては、設置者と法人の意見交換をしていただきたい。
- 「再掲」について、1年目は非常にたくさんあり、それが減ってきていることは評価できるが、「再掲」を減らすくらいの評価項目を整理する作業も重要であり、その中で大学というのは何なのか、という観点を揃えて考える必要がある。
- 大学の主眼は地域貢献もあるが、学生がいかに授業を通じて育ってくれたか、またいかに成果を上げてくれたかということも重要である。
- 様々な地域貢献・連携事業をやってきているが、そこに学生がどれだけ参加して、知識やノウハウを身に付けることができたかなど、学修のアウトカムを実績に示せるような評価書ならば、「4」や「5」の評価を付けることができる。

(委員)

ありがとうございました。皆さん、評価について意見の述べていただきましたが、広報については何かございませんでしょうか。

(委員)

- 広報効果測定の具体的な測定方法について、お客様が何を見て、来られているのか、どんな広報を見て来られたかの情報収集はして、何年かごとに広告を続けるかの検討をしている。
- 高校訪問の際に意見聴取して、反応を確認する等、複数年のスパンで広報の見直しをかけていくべきではないか。
- 学生を募集するための広報と大学の理念を伝える広報の項目があったと思うが、それぞれ違う視点で効果測定を実施すべきであり、その結果を記載して、実施した広報の成果があれば「4」や「5」の評価を付けることができる。

(委員)

- 効果測定について、数値的にここまで来たから効果があったというのは難しいと考えるが、最終的にここまで行ったら良いというのはなく、常に目標を立てて実行するというようになってくる。
- 次を見据えながら毎年度の目標を考えて、数値設定をいただき、その中でそれに合った形で業務の実績を評価していきたい。

(委員)

- 広報についてホームページが基本となっており、現在は新型コロナウイルスの関係で直接会うことが難しくなっている中で、オンライン上の広報の工夫がとても有効な手段となっている。
- 高校訪問など様々な広報を実施しているが、その実施回数によって広報の成果を測ることは分かりやすく、広報に力を入れていることが分かり、評価にも繋がってくる。
- しかし、大学の目標としては毎年一定数の学生を確保すること、質の高い学生を確保することであり、特に福知山市民の立場としては、地元から優秀な学生を確保して欲しい気持ちもある。
- 広報の効果測定では、一番効果が高いものは何かを現状把握する必要がある。例えば、新入生に対して、「何で関心を持ったか」「何で大学を見つけたか」など入学に直結した動機を把握するためのアンケートを実施して、どの広報活動が有効なのか、地元の生徒と遠方の生徒に分けて、効果の高いものを現状把握してはどうか。
- 北部地域における知名度向上については、大学の場合は単純に地元の高校生がどのような評価をするかなど口コミによる効果が大きく、どのような生徒が福知山公立大学に入学したかが大事となってくる。
- 各高校で学習意欲が高く成績が良い生徒が入学するとそのような大学であると認識され、それとは逆の生徒が入学するとあのレベルの子が入学できたなどすぐ口コミとして広まってしまうため、入学生の質的な管理が必要となってくる。
- 遠方の生徒の場合は、最初に関心を持つのが偏差値であり、より評価の高い大学に行きたいという単純な理由で選んだり、大学を調べていくことが多い。

(委員)

- どの大学も現在、HP や SNS を使っているのですが、そこに情報を発信するだけでは不十分であり、HP の閲覧数が多いから良いというわけでもなく、その先が重要になってくる。
- 一番必要なのはオープンキャンパス来場者や資料請求いただいた生徒の追跡が可能となる情報をどれだけ持てるかに関わってくる。
- オープンキャンパスの来場者は大学に興味・関心を持っているので、個人情報の取扱いに注意して、住所や出身高校、担任の先生の名前など踏み込んだ情報を収集できるよう努力する。
- それを出願データとマッチングするとオープンキャンパス来場者のうち、何人が学生となったかがおのずと出てくる。
- それを年度計画の中で 1000 人来たうちの 100 人しか志願に結びつかなかったところを、オープンキャンパスで受験対策講座を実施するなど取り組みを充実して、オープンキャンパス来場者のうち志願者を 20~30% に上げていく目標設定ができる。
- そして新たに取得したデータを分析することによって新たな結果で返ってくるが、分析は一朝一夕ではできず、とても手間暇がかかる作業であり、1つ1つのデータを積み重ねることが必要となってくる。

- ある大学でも生徒の情報を大切にするという観点で分析をしており、生徒ごとに資料請求をしてきた時期や、どこの会場で誰が面談をした人か履歴などを日記のようにつけている。
- 地方に出た時にその高校生の顔を見ただけで、名指しで当てて、「何月にお母さんと一緒に来てくれましたね」と自分の顧客のような形で管理をしている。
- そのような限界を超えるまで分析をしていかなければ、経費を無駄にかけて、全ての媒体を購入していくことになるため、私立大学とは違い公立大学では難しい。
- ネット広告や相談会など様々なことをして、分析をすることでどの媒体が一番効果が出るか、コスパに優れているかを統計上取っていくことが必要である。
- 今は少ないが、過去にフィードバックはがきという受験雑誌に資料請求はがきがついていて、その雑誌を500万円で購入したとして、フィードバックはがきが100枚戻ってきたとすると1枚当たりの戻り単価が出るので、雑誌を取捨選択する基準にもなる。
- 生徒の情報がなければ分析はできず、アンケートは学生の協力が必要である。ありとあらゆる手を使って、顧客動向を掴むことをできる大学とできない大学で差が出てくる。
- 1つでも2つでも福知山公立大学でできることがあればやってもらいたい。
- ある大学ではセンター試験の自己採点結果を見てから志願を決める学生が多かったため、分析結果を踏まえてオープンキャンパスも一時やめることもあった。

(委員)

- オープンキャンパスに来た人にアンケートをとっても、アンケート自体をどのように分析するのだろうかと思わせるような内容であったりする。
- 情報学部ができたので、先生の中でデータアナリティクスができる先生に協力いただきながら、どのようなマーケティング戦略を作っていくかを考えていただきたい。

(青山委員長)

- ・ 評価書について、修正箇所はないので、評価書を確定する。
- ・ 評価書は福知山市長に報告させていただき、法人にも後日通知する。

(3) 報告事項：令和元年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表等について

【資料4】、【資料5】により、財務諸表及び剰余金に係る事務局確認事項について市から説明。

(委員)

- 内容について問題ない。今回、建物の改修費を計上し、執行されている。学生の修学環境が整ってきていることは大学案内などを見ていると分かるが、まだまだ設備の面で不足しているところがあると思う。
- 大学で自己資金を獲得して、ハコモノを建てるというのは難しい。2学部体制となり、学生も増えているので学生が快適な環境で学んでいただくために、設置団体において

も、法人と連携して国からの補助金を獲得するなど施設改修ための予算措置をいただきたい。

(委員)

- 建物設備を年々更新していくのは大学の評判につながっていく。アメリカの大学ランキングでは、評価の指標の1つに学生1人当たりに対する施設投資・設備投資がある。今後、日本の大学でもそのような動きが出る可能性もあるため、設置団体と連携して、施設改修を進めていただきたい。

(青山委員長)

- 財務諸表について事務局で要件を満たしていることを確認いただいた。
- 財務諸表の承認に当たって評価委員会としては適当であると判断する。
- 剰余金についても基本的な考え方について事務局で確認いただいた。
- 第1回評価委員会で大学から概要説明をいただいたが、問題点はなかったので法人の経営努力の結果と判断できる。
- 従って目的積立金として翌年度に繰り越すことについて委員会として適当と判断する。

6 その他

(1) 令和2年度の業務実績評価全体を通じて

(委員)

- 大学側の評価基準の変更があり、中期目標期間の途中であったため、色々と混乱はあった。
- 評価基準の見直しは必要なことだったので、このことを契機に法人も評価委員会も市民も分かるような評価基準で法人の業務実績を見ていけるようにしていきたい。
- 4年目にしてここまで成果を上げられているのは法人側が努力していることが感じられ、敬意を表したい。

(委員)

- 今年度は新たな学部の設置ということで大きな転換であった。
- 情報学部が完成年度を迎え、地域経営学部とともに定員を充足すれば、800人の学生となる。懸念事項もあるが、福知山公立大学に入学してくる学生たちに良い学生生活を送っていただくために学修面や生活面で支援に力を入れていただき、行政とも連携いただきながら対応をいただきたい。
- 評価委員会として、様々な難題を1つ1つ克服されてきていることを評価したい。
- 令和3年度の受験生は地元からの入学者の増加も期待したい。

(委員)

- 前倒しの学部設置はこれ以上ない成果であると評価委員会誰もが思っている。
- 評価基準の見直しには戸惑ったが、今から振り返ると例えば「4」の評価では「計画を上回って実施している」とあるが、それは標語として認識して、両括弧内の（上回るもしくは十分な実施状況）を評価の目安と整理すれば評価基準の課題は解決するのではないかと感じている。
- 大学の発展が北部地域の振興につながるので、今後とも頑張りたい。

(委員)

- 私学から公立化した大学という類型化の中で埋没してほしくないという思いがあり、2学部体制を立派にやり切って、将来大学院まで発展してもらいたい。
- 福知山公立大学の成り立ちから見て、地域に愛される大学になってほしいとずっと言い続けてきた。
- 評価委員会の中で、地元の委員の目線は外部からでは感じ取れない一番正しい目線だと思っている。
- 福知山公立大学は北近畿で唯一の4年生大学であるため、市民の関心も高く、教育や地域連携など大学で頑張られていることを市民は肌で感じていると思うので、委員会では厳しいコメントを申し上げているが、向かっている方向は決して間違っていない。
- 2学部体制となって、一緒に良いより中期目標・中期計画を掲げていただきたい。

(委員)

- 地域の大学として、入学率1.5%という話もあったが、福知山公立大学が日本全国から人を集め、そして学んだ学生が全国に散らばって、福知山公立大学の価値を高めるという意味もある。もちろん地域でのリクルートも必要だが、外からくる人々をもっと活用をすればいいのではないか。
- アメリカでは、卒業した人々が様々な地域で暮らしているわけだが、そのような人々に地域の高校生たちが大学はどのようなところかを直に聞きに行ける仕組みがある。
- 広報の点で言うと例えば、福知山公立大学を卒業した人たちに今後、広報活動をするのであれば、どのような手段で実施すべきか、4年間で福知山公立大学を知り尽くした人がリクルーターになると、どのような目線があるかをアンケートで集めて、データ分析してみるとおもしろい結果で出るのではないか。
- 福知山に福知山公立大学ありという存在感を示していただきたい。

7 閉会

以上